

平成 30 年 6 月 25 日現在

機関番号：13601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02377

研究課題名(和文)ロヴァンジュール文庫所蔵のバルザック『人間喜劇』生成資料の悉皆調査と目録の作成

研究課題名(英文) Research and Description of Genetic Documents of La Comedie humaine in the Lovenjoul Fund

研究代表者

鎌田 隆行 (Kamada, Takayuki)

信州大学・学術研究院人文科学系・准教授

研究者番号：30436985

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：フランス学士院ロヴァンジュール文庫所蔵のバルザック『人間喜劇』作品生成資料(草稿、校正刷り、その他の断片)の悉皆調査を行ない、作品ごとに資料の保存状況と物質的特徴について記述した目録をフランス語で作成し、ウェブ上で公開した。これによって当該の93作品の作品制作資料の総合的な整理と見直しを行ない、既存のカタログや記述の内容を改訂し、バルザックの基礎資料に関する情報の大幅な更新を行なうことができた。

研究成果の概要(英文)：With an inventory of the genetic documents of La Comedie humaine de Balzac (manuscripts, corrected proofs and other fragments) preserved in the Lovenjoul collection at the library of the Institut de France, we have established work by work their material description in French and published it on the Web. This exploration enabled us to clarify the constitution of the documents for the 93 works and to carry out a complete update of the basic information on genetic documents of Balzac.

研究分野：フランス文学

キーワード：バルザック 生成論

1. 研究開始当初の背景

(1) 長短 90 篇ほどの小説群からなる『人間喜劇』を主著とするバルザックの生成論的研究については、S.ヴァッションらが版本や新聞連載など刊行物を中心に検証する「マクロジェネティック」を提唱し、これら複数のテキスト群が『人間喜劇』に統合されるプロセスを解明してきた。その反面、個別作品の版本の準備に使われた草稿や校正刷りなどの資料については、近代作家でも屈指といえるほど膨大に保存されているにも関わらず、本格的な生成研究の対象となつたのは 10 作品ほどに限られており、関係資料群全体に関する基礎情報の十分な整理と見直しが待たれる状況である。

(2) 問題となるバルザックの生成資料のうち 90%以上(約 500 帖)は、フランス学士院図書館ロヴァンジュール文庫に収蔵されている。司書 G・ヴィケールによって 1910 ~ 20 年代に調査が行われ、資料番号、作品名、種別と枚数を簡潔に記した目録が作成された。その後の伝統的草稿研究や、『人間喜劇』のプレイヤード新版(1976-81)はそれぞれ当該資料の成立史と原資料の所在状況や概要を記しているものの、用語体系や記述方法は統一されたものではない。すなわち、ヴィケールによる一覧以後、網羅的な目録は作成されておらず、フランス学士院図書館のウェブ上の検索システムは現在もなおこの約一世紀前の情報に依拠している。今後のバルザック研究において作品群を貫く作者の思想やエスティック、小説世界の構築の営為へのアプローチを深化させるための基盤として、精緻化された生成研究の観点から資料体の全体を見直し、統一的で整理された情報を提示することは喫緊の課題である。

(3) 研究代表者はこれまでに同文庫の資料調査を行い、バルザックの作品の生成論的研究を進めてきた。代表作『幻滅』第二部『パリにおける田舎の偉人』(1839)の生成資料の分析を行い、2006 年に著作として刊行した。その後、科学研究費基盤研究(C)(2009 ~ 2011 年度および 2012 ~ 2014 年度)により、『セザール・ピロトー』(1837)の調査・分析を進め、成果を公開した。他方、フランスのクラシック・ガルニエ社から刊行予定の E・ボルダス(編)『バルザック事典』の執筆担当の一員として、この作家の作品制作や刊行の諸問題に関わる項目を中心に 30 項目ほどを担当し、刊行の準備を進めている。こうした作業を通じて、バルザックの作品執筆プロセスの解明や、作品群・生成資料群の構成とそれぞれを結ぶ関連性について考察を行ってきた。研究代表者はまた、国際バルザック研究会執行部メンバーであり、ロヴァンジュール文庫の資料体をめぐる諸問題についてフランスや日本の第一線のバルザックの専門家と意見交換を進めてきた。

2. 研究の目的

(1) 本研究は上記の研究成果を背景に、ロヴァンジュール文庫のバルザックの生成資料群を踏査し、整理・記述することで、豊かな研究上の原資を擁する作品群に対する生成研究の新たな展開の準備に寄与することを目指す。

(2) 具体的には、同文庫の収蔵資料のうち、網羅性の担保のため、『人間喜劇』の収録作品に限定し、関係資料約 300 帖を調査対象とする。先行研究(ヴィケールの目録、プレイヤード新版の記述、個別研究の成果)を参照しつつ、関係する原資料との照合を行い、不統一や誤記は正し、制作年代、種別、物質的特徴を記述した一覧をフランス語で作成し、インターネット上で公開する。

(3) 他方、この資料体の調査によって、『人間喜劇』の形成のプロセスやバルザックの小説詩学の展開を多面的に明らかにし、国内外での研究発表や論文等の形で成果を公開する。

3. 研究の方法

(1) まず、『人間喜劇』収録作品に対応する記述用の一覧表を作成した。生成論の先行研究において部分的な記述モデルが提示されており、これらをもとに原案を作成し、改良を行った。また、記述用語の体系を整理し、プレイヤード版に準拠して略号なども予め定めた。

(2) プレイヤード版の注解、ヴィケールによるロヴァンジュール文庫目録、S.ヴァッションによるマクロジェネティック研究など個別の先行研究の情報をまとめ、関係作品の成立過程と資料保存状況についての情報を総合的に整理した。また、毎回、現地調査に先立って調査予定の個別作品の詳細な情報を確認した。

(3) 夏休みなどを利用して渡仏し、ロヴァンジュール文庫で現地調査を行い、当該資料体の形態的要素と内容を分析しながら、全体の構成、制作年代、機能的分類(プラン、初稿、清書原稿、校正刷りなど)を確認し、フォーマット、枚数などの物質的特徴を調べて一覧表に記述した。これらについては既存の情報と常に対照し、誤記や遺漏があれば修正し、更新情報を加えた。

(4) ロヴァンジュール文庫に所蔵されていない関連資料(版本、書誌学的情報など)をも広く参照し、不明な点は究明し、補足的な情報を確認して目録を補完した。定期的に見直しを行い、一覧表をより見やすくするとともに、記述のさらなる明確化を図った。

4. 研究成果

(1) ロヴァンジュール文庫所蔵の『人間喜劇』関係資料の調査結果をまとめてフランス語による総合目録を作成し、インターネット上に公開した(下記 URL)。これにより、G・ヴィケールによって 1910 ~ 20 年代に行なわれた網羅的な調査以来、約一世紀ぶりに同文庫のバルザック『人間喜劇』生成資料の悉

皆調査が実現し、同資料体の構成に関して統一的な観点から情報の更新を行なうことができた。

(2) 資料調査と目録の作成を通じて『人間喜劇』の成立過程とバルザックの小説技法の変容を多角的に考察し、その成果を公開した。各年度の主な成果は次の通りである。

2015年度にはバルザックの1840年代の作品群や人物再登場のシステムの適用について考察を進め、論文『『そうとは知らない喜劇役者』再発見の旅(1)』を発表し、「パノラマ文学」的な作風による一連のスケッチからなるパリ社会風俗描写の複雑な意味作用の考察を試み、卓越性を喪失した七月王政下の凡俗化する社会とそこに跋扈する、自らの愚かさ気付かない「喜劇役者」たちをバルザックが風刺した手法を分析した。また、口頭発表《Genèse des personnages reparaissants》ではバルザックの人物再登場の手法の成立と展開を検討し、1840年代の作品が新たな人物再出のダイナミズムを提起するメカニズムを検証した。他方、口頭発表『『ゴディサール二世』と人物再登場』では、『名うてのゴディサール』からの登場人物の派生のプロセスや、凡庸化する時代における傑出した人物像の構築を分析した。

2016年度にはバルザックの1840年代の作品の考察を引き続き行い、論文『『そうとは知らない喜劇役者』再発見の旅(2)』を発表した。これは前年度の論文の続編である。同作品が「現在時」の描写によって『人間喜劇』の他の作品との相互照射作用を実現していることを明らかにした。また、国際学会「思想家バルザック」での口頭発表《La pensée du livre chez Balzac : spiritualité et matérialité》では、青年期から唯心論と唯物論の統合という哲学思想的テーゼに関心を抱いていたバルザックが、自らの作品制作においても思想にいかにより具体的な形を与えるかという方法論の問題をこれに関連づけて考究しており、序文や作中においてその制作論が開示されていることを跡付けた。

2017年度にはバルザックの作品制作・刊行計画と小説内容の発展について分析を進め、論文《Modes de publication et poétique du chapitre chez Balzac》を発表し、バルザックにおける章立ての問題を考察し、活動時期ごとに出版様態と章立ての傾向がどのように変化していったかを分析した。口頭発表『『人間喜劇』の生成資料の内容記述の試み』では、本研究によるロヴァンジュール文庫の資料調査の進展と現行の学士院図書館の目録の問題点を指摘した。口頭発表『『セザール・ピロトー』における食卓の場面』では、バルザックの小説における飲食表象の問題系を整理し、『セザール・ピロトー』における飲食の場面がどのように配置され、物語内容といかなる関係を持っているのかを分析した。国際学会での発表《Scènes de repas dans César Biotteau》では、『セザール・

ピロトー』における作中の飲食の場面が、主人公の苦難の軌跡を構造化しており、この人物と食卓とのプロブレマティックな関係を示すこと、他方、飲食の場面は民衆出身の登場人物クラパロンの造形に寄与していることを論証した。口頭発表「バルザックとジャーナリズム」では、バルザックの1829年12月～31年8月のジャーナリスト時代の活動、連載小説家としての活動、1840年代のパノラマ文学での活動という三つの主要な問題を取り上げ、バルザックとジャーナリズムとの影響関係の論点整理を行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計3件)

鎌田隆行, 《Modes de publication et poétique du chapitre chez Balzac》, 信州大学『人文科学論集』, 通巻52号, 119-132, 2018, 査読無.

<http://hdl.handle.net/10091/00020443>

鎌田隆行, 『『そうとは知らない喜劇役者』再発見の旅(2)』, 信州大学『人文科学論集』, 通巻51号, 203-217, 2017, 査読無.
<http://hdl.handle.net/10091/00019634>

鎌田隆行, 『『そうとは知らない喜劇役者』再発見の旅(1)』, 信州大学『人文科学論集』, 通巻50号, 153-168, 2016, 査読無.
<http://hdl.handle.net/10091/00018907>

〔学会発表〕(計7件)

鎌田隆行, バルザックとジャーナリズム, 日本フランス語フランス文学会秋季大会ワークショップ「19世紀文学とジャーナリズム」, 2017年.

鎌田隆行, Scènes de repas dans César Biotteau, 国際シンポジウム『バルザックと食卓の表象』, 2017年.

鎌田隆行, 『セザール・ピロトー』における食卓の場面, 関西バルザック研究会, 2017年.

鎌田隆行, 『人間喜劇』の生成資料の内容記述の試み, 関西バルザック研究会, 2017年.

鎌田隆行, La pensée du livre chez Balzac : spiritualité et matérialité, 国際シンポジウム「思想家バルザック」, 2016年.

鎌田隆行, 『ゴディサール二世』と人物再登場, パリ大学都市日本館19世紀研究会, 2016年.

鎌田隆行, Genèse des personnages reparaissants》, 国際バルザック研究会セミナー, 2015年.

〔その他〕

ロヴァンジュール文庫『人間喜劇』生成資料目録(ウェブ公開)

http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/arts/prof/kamada_1/Descriptif.pdf

6 . 研究組織

(1)研究代表者

鎌田 隆行 (KAMADA, Takayuki)

信州大学・学術研究院人文科学系・准教授

研究者番号：30436985